

【報告】

平成29年度一橋大学附属図書館企画展示実施報告：
「批判・反骨・ユーモア 新聞・雑誌でめぐる風刺画の世界」展

長名 大地

(学術情報課利用者サービス係)

一橋大学学術・図書部

1. はじめに

一橋大学附属図書館（以下、附属図書館）では、社会科学の資料を中心とした一大コレクションを所蔵しているが、約140年という長い歴史の中で蓄積されてきた資料の中には、意外な資料も含まれている。その中の一つとしてあげられるのが、19世紀フランスで発行されていた風刺新聞『ル・シャリヴァリ』を中心とする風刺新聞・雑誌のコレクションである。平成29年度企画展示では「批判・反骨・ユーモア 新聞・雑誌でめぐる風刺画の世界」[図1]と題し、これら附属図書館に眠る風刺画を取り上げた。本稿は同展の報告書である。なお、本展の企画・運営は、筆者を含む附属図書館の職員7名からなる展示ワーキンググループが担当した。

2. 企画展示の概要

平成29年度一橋大学附属図書館企画展示「批判・反骨・ユーモア 新聞・雑誌でめぐる風刺画の世界」は、平成29（2017）年11月1日から30日（10時から17時）にかけて、一橋大学附属図書館展示室で開催した。土、日、祝日は閉室したが、一橋祭開催期間にあたる11月24日から26日（9時半から17時）は開室した。開室期間は合計24日間であった。

3. 展示内容

本展では、附属図書館が所蔵する風刺新聞・雑誌を取り上げた。第1章「風刺画」、第2章「検閲」、第3章「生活」、第4章「戦争」、第5章「日本」の全5章立てとし、19世紀から第一次世界大戦が終戦を迎える20世紀前半にかけて、フランスやドイツ、イギリス、オーストリア、日本で発行された風刺新聞・雑誌を取り上げ、計27点の資料を展示した。

本展の導入部にあたる第1章では、風刺画を「時代を映し出す鏡」として定義した上で、

その興りを巡り、風刺新聞・雑誌に先鞭を付けた19世紀フランスの『ラ・カリカチュール』紙 (La caricature)、『ル・シャリヴァリ』紙 (Le charivari)、そして、イギリスの『パンチ』紙 (Punch) に焦点を当て、それらが世界に波及していく歴史を概観した。第2章以降は、「検閲」、「生活」、「戦争」、「日本」と、4つの切り口から時代も地域も様々な風刺新聞・雑誌に掲載された風刺画を紹介した。なお、企画展示の詳細は、図書館ホームページで公開している解説パンフレットを参照していただきたい¹。

4. 広報活動

本展の広報活動としては、『HQ』(vol.56)、『如水会会報』(2017年10月号)、『BELL』(no.159)²で事前告知を行った。10月中旬には他大学図書館、文化施設、報道機関に対し、チラシやポスターを送付し協力を仰いだ。また、JR国立駅構内や、国立市内の掲示板にもポスターの掲示依頼をした。こうした取り組みは、昨年度の企画展示で広報活動が行き届かなかった反省を生かしたものである。さらに、企画展のオープンからまもなくして、朝日新聞と東京新聞から取材を受ける機会があった。それぞれの朝刊で本展が取り上げられこともあり³、延来場者数は3,311名に上った。

5. 展示構成

一橋大学附属図書館の展示室は、8m×6mの長方形から成るホワイトキューブをしている。本展は、テーマ別に風刺画を紹介する構成を取ったため、緩やかな順序はあるものの、必ずしも章順に沿って鑑賞する必要はなく、章ごとに内容が完結するよう配慮した。具体的な展示構成は[図2]を、実際の展示室内の様子は[図3、4、5]を参照していただきたい。

展示全体のテーマカラーはローズや、ブラウン系に統一し、落ち着いた雰囲気を中心とした。ライティングに関しても、資料の劣化を防ぐために、バナーや解説パネルを照らし、資料に照明を直接当てないよう配慮した。また、風刺画という性質上、誰に、あるいは、何に対す

¹ <http://www.lib.hit-u.ac.jp/pr/tenji/kikaku/2017/>.

² HQ. 2017, vol. 56, p. 44.、如水会会報. 2017. no. 1038, p. 106-107.、BELL. 一橋大学附属図書館. 2017. no. 159.

³ 反骨・ユーモア風刺画の妙技. 朝日新聞〔東京版〕朝刊. 2017年11月9日(木)、世界の風刺画 時代映す. 東京新聞〔多摩版〕朝刊. 2017年11月14日(火)

る風刺なのかを示す必要があったことから、各キャプションには書誌情報だけでなく、解説も付した。キャプションはB6サイズを基本としたが、ややテキスト量が多くなってしまい、文字ポイントも小さくせざるをえなかった。そのため、キャプションが判読できない方のために、キャプションと同内容の解説シートを別途作成し、展示室内のソファ脇に設置し、手元で解説が読めるよう工夫した。



図1 展覧会ポスター

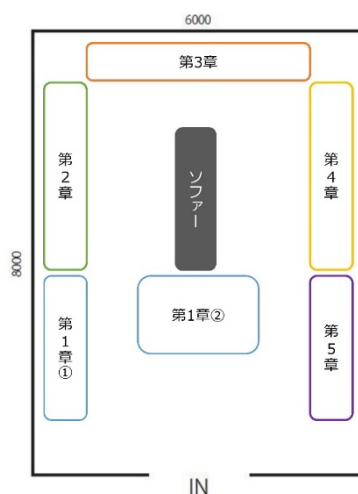


図2 展示構成



図3 展示室内



図4 展示室の外観



図5 来場者の様子

6. 解説パネル類

本展では壁面に、5点のバナーと、8点のパネルを掲示した。解説はワーキンググループのメンバーで分担したが、デザイン、および、掲示物の製作は、(株)東京スタジオに依頼した。内訳は[表1]に示したように、トロマットによるバナー5点、ドライマウントによるパネル8点とした。なお、展示資料に添えたキャプションは、すべてワーキンググループのメンバーで内製した。

(表1) 解説パネル一覧

内容	種別	形態	サイズ	点数
第1章から第5章	バナー	トロマット	900×1800	5
解説	パネル	ドライマウント	A2	2
解説	パネル	ドライマウント	A3	6
キャプション				27

7. 講演会

2017(平成29)年11月17日(金)(14時半から16時)に、東京情報大学・茨木正治(いばらぎまさはる)教授をお招きし、「新聞・雑誌漫画にみる批判・反骨・ユーモア～近現代日本の諷刺画を手掛かりに～」という題目でご講演いただいた。企画展示が20世紀前半までを対象としていたのに対し、講演会は20世紀後半から現代に至る風刺画を取り上げていただいた。展示で扱えなかった時代を講演会で補っていただく内容となった。

講演会に向けては、展覧会会期中に講演会チラシ[図6]を作成し、配布した。先述の新聞にも講演会情報が記載されていたことから、当日の参加者は46名を数えた。来場者アンケートには、「世界的に諷刺画、諷刺が、ストレートな体制批判ではなく、多様化によって難しくなっていることがわかりました。社会の多様化により、批判は複雑化していると思います。ある意味怖い時代であると感じました」や、「ただ諷刺画のみでなく、それがどのように新聞・雑誌に取り上げられたのかが分かり良かったです」といったコメントが寄せられた。

反省点として、参加者の多くを一般の学外者が占め、本学の学生が非常に少なかったことが挙げられる。来年度以降は、いかに学生の参加を促すか、講演会の曜日や時間帯など、再検討する必要があるだろう。なお、講演原稿と講演配布資料は前掲の図書館ホームページで

公開している。

平成29年度 一橋大学附属図書館企画展示

批判・反骨・ユーモア

—新聞・雑誌でめぐる風刺画の世界—

期間：2017年11月1日(水)～11月30日(木) 10:00～17:00
【入場無料】 ※土・日、祝日は閉室。ただし、一橋祭期間中
(24日(金)・25日(土)・26日(日))は9:30～17:00開室。

講演会

「新聞・雑誌漫画にみる批判・反骨・ユーモア
～近代日本の風刺画を手掛かりに～」

11月17日(金) 14:30～16:00

入場無料、事前申込み不要

19世紀から現代にかけての日本の新聞・雑誌漫画を軸として、新聞・雑誌漫画が政治風刺画としてどのように描かれてきたのか、従来の風刺画の歴史や制作現場を辿る。新聞・雑誌風刺画の制作現場をめぐって制作の背景だけでなく、風刺画の制作、読者の受け手としての「受容」も考慮する。それらについて語ることもあろう。また、現代の風刺画・政治漫画の制作現場についても紹介する。このように、多様な視点を軸として近代日本の風刺画の制作現場を振り返る機会となる。

<p>【講師】</p> <p>東京大学大学院 茨木 正治 (いはらまきまはる) 氏</p>	<p>【会場案内】</p> <p>東いずもビル5階カンファレンスホール ・案内：一橋大学附属図書館・展示室 ・受付：一橋大学附属図書館・展示室</p>
<p>【講師経歴】</p> <p>新井まほろ、学芸大学大学院法政学研究所特別 上席教授兼任助教授、博士(政治学・新聞学 学)、立教大学法学部を経て現在は東京大学 大学院、専門的知識がメディア、マンガ、新 聞学専攻。</p>	<p>【交通案内】</p> <p>・京中小津 「田上」駅下車 徒歩10分 ・京浜東北線 「岩崎」駅下車 徒歩10分 または山手線「一橋大学」下車</p>
<p>【案件紹介】</p> <p>・『政治風刺』の歴史(1997年) ・『ユーモア』の歴史(2007年) ・『風刺画』の歴史(2017年) ・『風刺画』の歴史(2017年)</p>	<p>一橋大学附属図書館 東京都港区六本木7丁目1番1号 電話：042-580-8243 http://www.lib.t.u-tokyo.ac.jp/arc/arc.html</p>

図6 講演会チラシ



図7 講演会の様子

8. おわりに

本展は、社会科学の研究書を所蔵しているという堅いイメージの強い一橋大学附属図書館にも、美術的に価値が高く、視覚に訴える資料が所蔵されていることをアピールする機会になったといえよう。朝日新聞や東京新聞で本展が取り上げられた効果もあり、延来場者数は歴代最多となった。展示室内に設置したアンケートには、110名の方から回答を得られた。「本展示についてどう思われますか？」という設問に対しては、98名の方が「よい」と答えてくださった。自由記述欄には、「展示物が見やすく、解説も詳しくとても面白かったです」や、「このような大学ならではの企画展を今後共大いに期待しております」、「オリジナルをみると、その時代の空気がつたわって来ます」といった好意的な意見が大半を占めた。他方、「時代を下ったものも紹介していただきたい」や、「もっと点数が多いとなお楽しめた」といった意見も寄せられた。今後の課題としたい。なお、企画展示および講演会に関しては、『BELL』(no. 160) や『文教速報』⁴でも実施報告をしている。本稿と併せて参照していただきたい。

⁴ BELL. 一橋大学附属図書館. 2017, no. 160.、一橋大附属図書館が風刺画の展示と関連講演. 文教速報. 2018, no. 8523, p. 16.

[Report]

Report on 2017 special exhibition: Criticism / rebellion / humor: the world of caricatures over newspapers and magazines

Osana, Taichi.

Circulation Section, Library Affairs Division, Department of Libraries and Information,
Hitotsubashi University